

# 錦上添花

錦ヶ丘中学校  
学校便り  
7月5日発行 NO.11  
文責 出崎 友英

## プラス受信

ある大企業で、入社希望の学生に「あなたの人生は今までツイてましたか？」という質問をしたそうです。

そして、その質問に「はい、ツイてました。」と答えた人を採用したそうです。どんな有名大学の卒業生でも「いいえ」と答えた学生は不合格になりました。

実はこれは、その人が「プラス受信」できる人かどうかを見る質問です。プラスマイナスの「プラス」と、メールを受信するという時の「受信」。それをあわせて「プラス受信」です。つまり、「プラス受信」とは、「ある出来事をプラスに受けとめる発想法」のことです。

日常のいろいろな出来事の中には、受け止め方によってプラスに解釈することもマイナスに解釈することもできることがたくさんあります。例えば、雨が降ってきた時に「これで涼くなる。」「校庭の草花が喜ぶぞ。」と考えるか「じめじめしていやだ」「雨でぬれてしまうよ。」と考えるかの違いです。

高校野球のある強豪校では、ピンチの場面になると選手同士が「ピンチが来たぞ。よし、いいじゃないか。」「ここを乗り切るとチャンスが来るぞ。楽しもう。」という声をお互いがかけあっているそうです。➤



私の周りにも「プラス受信」が得意な人がいます。ある友人は、自分の車がエンジントラブルを起こして動かなくなったとき、「大きな道を通っているところでなくてよかった。」「人を事故に巻き込まなくてよかった。」「日頃から点検しておけ、と神様が教えてくれた。」と笑顔で言ったので、横にいた私はとても驚きました。

プラス受信をするためのコツが2つあるそうです。1つ目は、「このことは自分にとってためになることだ。」と考えること。2つ目は、「ピンチ自体を楽しんでみようとする」ことです。なにか問題が起こってくると、「よし面白くなってきた。」とか、「これってドラマみたいだなあ。」などと考えることです。かの豊臣秀吉は、このような考え方が得意だったと聞いたことがあります。

そんなことを書きながら、私自身はなかなかプラス受信がうまくできません。

私たちが出会う出来事には、前向きに考えればチャンスとなり、後ろ向きに受け止めればピンチになるものがたくさんあります。

どんなことが起きたかではなく、それをどう受け止めてどう動いたかが大切なのです。

チャンスにできない出来事はありません。チャンスにしない人がいるだけなのです。

## 公開授業がありました。

7月4日(木)に、1年6組で数学の●●先生の公開授業がありました。教育センターの先生や本校の数学科の先生方が多数参観される中で、生徒たちは自分の考えをICTを上手に使いながら発表したり、グループで話し合ったり、他の班に自分たちの考えを説明に行ったりと、主体的・協働的に活動する様子が見え、とてもすてきな授業でした。小山先生と1年6組の皆さん、ありがとうございました。



## ◆お知らせです。

○先週の学校便り(6月28日:NO.10)で市中総体(中体連)大会の主な成績をお知らせしましたが、その後新たに剣道女子代表個人で3年●●●●さんがベスト8に入り、県大会に出場します。



また、水泳では3年●●●●くんが50m平泳ぎと100m平泳ぎでそれぞれ3位、1年●●●●さんが200m自由形で2位、100m自由形で3位、女子フリーリレー4×100m(1年●●●●さん、2年●●●●さん、●●●●さん、●●●●さん)

が2位に入賞し、標準記録を突破した16人が県大会に出場します。

県大会は7月13日、14日および20日、21日に開催されます。

県大会に出場する皆さんの健闘を願っています。がんばれ！錦ヶ丘中！



努力が必ず実るとは限らない。  
でも、成功した人は必ず努力している。

「先生のコトバ集」より